

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

教育目標

大阪大学及び人間科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「人間科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として人間科学研究科が発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。これを研究科規程として「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成すること」としてきました。平成28年度からはその目的をさらに高いレベルで実現するために、本研究科ならではの学際性を活かして、共生学という学問分野を創設しています。

その目的の実現のため、

- 学際性：現代的課題を深く追究し解決へとつなげるために、文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化するとともに、その研究課題の解明を希求する現場と結びついた問題解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：複雑化し激動するグローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士後期課程においては、グローバルな実践性を備えた専門家及び将来研究者を目指す人材を養成します。

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学及び人間科学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」では、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、さらに共生学という新しい学問分野の展開を目指しつつ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その実現のため、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を身につけ、さらに所定の期間在学し、所定の単位を修得し研究科規程に定める試験に合格し、博士論文を提出した学生に博士の学位を授与します。博士論文の審査基準としては、国際的な学術水準及び学際的視点から見て、十分な独創性や重要性があり、社会的要請に応える可能性を持つことが求められます。

- 日本及び国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- 行動学、社会学、人間学、教育学、共生学の高度な知識を体系的に理解している。
- 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応え、解決しようとする意欲を持っている。
- 自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- 自ら設定した課題についての専門的知識、及びそれを科学的・実証的・統計的手法、並びに人文的・文献調査的手法を用いて分析・考察できる研究スキルを修得している。
- 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力や技術、コミュニケーション能力を持っている。
- グローバルにコミュニケーションする能力を持ち、自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信する能力と意欲を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者のほか、高度な専門知識を備えた職業人として認定し、グローバルな実践性と高度な「現実対話力」を備えた専門家として輩出します。

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学及び人間科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」は、行動学・社会学・人間学・教育学を中心とした学際的研究及び共生学の構築によって、グローバルなレベルでの未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えることを目的とする「人間科学専攻」からなっています。「人間科学専攻」は、横断的・学際的に学問全体を俯瞰できるよう、「コンフリクトの人文科学」「インターンシップ」「キャリアデザイン」などの共通科目群を設定しているほか、相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。

そして本研究科では、科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文科学的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、人間と社会の諸側面について総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。さらに、幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラム及び高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士後期課程では、人間行動学・行動生態学・社会環境学・基礎人間科学・臨床教育学・教育環境学・未来共生学・グローバル共生学の8つの大講座が多様な講義・演習をラインナップし、さらにフィールドワーク実習と研究方法の深化を追究する科目群を整備しています。また平成24年度からは、リーディング大学院（博士課程教育リーディングプログラム）の発足に伴い、超域イノベーション及び未来共生イノベーターの各プログラム科目も併せて履修できる体制を整えています。

各学年の4月に研究計画書の提出を行い、翌年の2月に研究概要報告書の提出が求められ、各自の研究を進めていきます。最終学年では11月に論文題目届を行い、12月に博士論文を提出し、翌年の1月から2月にかけて公聴会を実施します。最終試験に合格すると博士の学位が授与されます。

<カリキュラムマップ別紙>

学位プログラム「博士（人間科学）」の教育目標及び各ポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

大阪大学及び人間科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

学位プログラム「人間科学」は、「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成することを目的」としています。そのため、文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性という教育プログラムを充実させてきた私たちは、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力、並びに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる学生を強く求めています。

人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。私たちは、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探求する素地を持つ学生を積極的に受け入れることで、総合科学としての人間科学を発展させていきたいと考えます。同時に、多彩な職業経験を有し、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。そのためには、下記のような能力を入学以前に修得していることが求められます。

- ・専門分野に関する深い知識
- ・実験や観察、フィールド調査などを行うためのしっかりとした研究方法
- ・調査結果や文献などを適切に分析しまとめる能力
- ・研究成果を発表するプレゼンテーションの技術や語学力

【入学者選抜の方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる日本語での表現力、並びに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。したがって学力試験、論文等の考査、成績証明書等を総合して入学者選抜を行います。社会人特別入試では、提出された研究計画書や修士論文・研究論文に基づく口頭試問により選抜します。